

各医療関係職種団体における研修の実施状況

チーム医療推進協議会参加団体 生涯学習システムへの取り組み状況……………	P.1
1. 日本理学療法士協会……………	P.2
2. 日本作業療法士協会……………	P.4
3. 日本歯科衛生士会……………	P.7
4. 細胞検査士会……………	P.8
5. 日本診療放射線技師会……………	P.9
6. 日本臨床衛生検査技師会……………	P.10
7. 日本医療社会福祉協会……………	P.11
8. 日本栄養士会……………	P.15
9. 日本救急救命士協会……………	P.16
10. 日本言語聴覚士協会……………	P.17
11. 日本診療情報管理士会……………	P.18
12. 日本臨床心理士会……………	P.19
13. 日本臨床工学技士会……………	P.20

**チーム医療推進協議会参加団体
生涯学習システムへの取り組み状況**

	組織率 (%)	生涯学習システムの有無	会員の参加状況
日本医療社会福祉協会	30%	有	不明
日本医療リハビリテーション協会			
日本栄養士会	65% ※管理栄養士・栄養士を含む	有	不明
日本看護協会			
日本義肢装具士協会	45%	有 (構築途上)	17%
日本救急救命士協会	0.1%	有 ※会員が少なく研修を開催するほど 損失が増えるため、 H25.9月末に研修センターを閉鎖	0%
日本言語聴覚士協会	59.4%	有	H24年度9講習会開催 延べ受講者数2,081名 (会員12,104名)
日本作業療法士協会	71.1% (H25.3月31日現在)	有	7.9% (生涯教育制度を構成する各ステージを 通過・取得した会員率)
日本臨床細胞学会細胞検査士会	100% (4年毎の更新制度があり 学会への加入が条件のため)	有	100% (更新時に一定のポイントが 必要になるため)
日本歯科衛生士会	15.3% (H22年12月末現在)	有	H24年度641研修会開催、 延べ受講者数22,798名 (会員15,750名)
日本視能訓練士協会	55.0% 正会員数5,869名	有	15.5% (基礎教育プログラム修了者)
日本診療情報管理士会	約11% (H25.7月17日現在)	有	約17% (H24年度研修会への平均参加率)
日本病院薬剤師会			
日本診療放射線技師会	57.10%	有	H24年度132研修会開催 延べ受講者数8,282名 (会員28,827名)
日本理学療法士協会	77.4% (H25.3月末現在)	有	2% (専門理学療法士資格保有率 H25.7月現在)
日本臨床衛生検査技師会	58.7%	有	19.6%
日本臨床工学技士会			
日本臨床心理士会	73.6%	有	100% (5年ごとに資格更新するために 研修が必須なため)

1. 日本理学療法士協会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等	頻度	概要	対象者	
教育分野	新人教育プログラム	2600単位	全国47都道府県の下部組織が運営。卒後3～5年目くらいの若手会員を対象とし、組織、倫理、制度や社会の中での理学療法など基本的な知識の習得を目的とする。	卒後3～5年の若い理学療法士会員
	理学療法士講習会（基本編 理論+実技）	88回	理学療法士としての基本的な理学療法の理論や技術を学ぶ。対象は若手～中堅の理学療法士	卒後5年～10年の理学療法士会員
	理学療法士講習会（応用編）	73回	臨床的治療の理論や技術の展開・向上をはかる。	卒後5年以降の理学療法士会員
	教員研修会	2回	養成校勤務者を対象とした研修会。卒然教育の在り方などについてワークショップを交えて開催。	理学療法士養成校の教員
	臨床実習指導者研修会	8回	養成校勤務者と臨床施設で実習生を受ける側の両方を対象とした研修会。臨床実習教育の在り方などについてワークショップを交えて開催。	理学療法士養成校の教員、臨床実習の指導者（原則として入会3年目以上）
認定資格分野	基礎理学療法	2回	ヒトを対象とした基礎領域と、動物・培養細胞を対象とした基礎領域の2つ。認定資格受験の為に必須として受講すべき研修会。	新人教育プログラムを終了した会員
	神経理学療法	9回	脳卒中、神経筋障害、脊髄障害、発達障害の4領域の最新トピックスから理学療法について。認定資格受験の為に必須として受講すべき研修会。脳卒中領域の研修会が最も頻度が高い（5回）	新人教育プログラムを終了した会員
	内部障害理学療法	4回	循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病などの代謝異常の3領域の疾患における最新トピックスから理学療法について。認定資格受験の為に必須として受講すべき研修会。	新人教育プログラムを終了した会員
	運動器理学療法	3回	運動器障害、切断、スポーツ理学療法、徒手療法の4領域の最新トピックスから理学療法について。認定資格受験の為に必須として受講すべき研修会。	新人教育プログラムを終了した会員
	生活環境支援	4回	地域理学療法や地域リハビリ、コミュニティの健康増進や社会参加に関する理学療法、介護予防、補装具の、4領域の最新トピックスから理学療法について。認定資格受験の為に必須として受講すべき研修会。	新人教育プログラムを終了した会員
	物理療法	3回	物理療法、褥瘡・創傷ケア、疼痛管理の3領域の最新トピックスから理学療法について。認定資格受験の為に必須として受講すべき研修会。	新人教育プログラムを終了した会員
	教育管理	3回	臨床での教育、管理運営、学校教育の3領域の最新トピックスから理学療法における活用について。認定資格受験の為に必須として受講すべき研修会。	新人教育プログラムを終了した会員
	指定研修会	4回	認定資格受験のための受講要件としての指定研修会。全国4ブロックで開催。	新人教育プログラムを終了した会員
学術分野	基礎理学療法	2回	「科学するシズ」研修会、体験型研修会（ひとを対象とした基礎領域）など、基礎分野の理学療法の入門編の研修。	全会員
	神経理学療法	3回	「脳卒中理学療法の視点と実際」、ミラーニューロンの明らかにしたもの、学習と脳など。神経の理学療法に関する研修。	全会員
	内部障害理学療法	13回	循環器理学療法入門セミナー、生体反応モニタリング、心臓・大血管手術後の理学療法、糖尿病理学療法、呼吸理学療法セミナー、心不全の理学療法、呼吸理学療法講座、循環アドバンス、など。内部障害の理学療法に関する研修。	全会員（アドバンスなどは一部例外あり）
	運動器理学療法	2回	運動機能障害に対する機能診断とクリニカルリーズニング、臨床研究による理学療法診断学構築の具体的手法など。運動器障害の理学療法に関する研修。	全会員
	生活環境支援	7回	障がい者スポーツ指導者講習会、福祉用具セミナー、など。理学療法士が障害を持つ方々への生活、社会、環境などの支援に関する研修。	全会員

	物理療法	1回	物理療法領域における教育と研究など。物理療法に関する研修。	全会員
	教育管理	2回	管理運営研修会、職場の運営管理、マネジメントについて。	全会員
	徒手理学療法	1回	JFOMPT主催研修会、徒手療法の	全会員
	精神心理理学療法	2回	身体リハビリテーションにおける精神医学・心理学的対応など	全会員
職能分野	起業促進・支援セミナー	2回	起業促進を目的とした研修会。運営のノウハウや、起業のための事業計画策定などを学ぶ。	全会員
	訪問リハビリテーション管理者研修会	1回	訪問リハでの管理者育成を目的とする。	全会員
	通所リハビリテーション研修会	1回	通所系サービスの理解と運用を学ぶ。	全会員
	介護予防アドバンスセミナー	1回	地域における介護予防のアドバンス編	全会員
	提案型管理者研修会 (医療・介護)	1回	提案型管理者の育成を目的として開催。	全会員
国際分野	国際教育セミナー	1回	国際社会で通用する理学療法士の育成のため、世界の理学療法に関する最新の知識や技術を学ぶことを目的とする。	現職の理学療法士と養成校の学生
	海外技術協力セミナー	1回	途上国での理学療法の普及や障害者支援に携わった講師から技術協力についての知識を学ぶことを目的とする。	全会員
その他	リカレント研修会	2回	復職支援をふくめたリカレントに関する啓蒙を目的とした研修会。	男性、女性関係なく、全ての会員を対象とする
	法規検討研修会	1回	倫理にかんする啓蒙を目的とした研修会。	全会員

2. 日本作業療法士協会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等		頻度	概要	対象者 ※当年度正会員を前提とする。
認定作業療法士取得共通研修	管理運営	年6回	1) 認定作業療法士に求められる職場での管理職としての意識を持つようになる。 2) 第三者評価のように職場の状況を評価することの意味を理解する。 3) 協会（士会）の活動目標を理解して、業務管理に役立てることができる。	基礎研修修了者
	教育法	年6回	1) 認定作業療法士に必要な臨床実践の質の維持・向上を目指す。 2) 臨床実習（教育）における教育目標について理解する。 3) 臨床実習指導時の教育目標について具体的に設定できるようになる。	基礎研修修了者
	研究法	年6回	1) 作業療法における科学的な研究法の習得は必須であるとし、基本的な研究法について学ぶ。 2) 作業療法の発展に重要な研究デザインの考え方や基本統計手法、事例研究について理解する。 3) 事例報告登録制度の内容を理解し、事例報告への意識を高める。	基礎研修修了者
認定作業療法士選択研修	身体障害領域	年6回	身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の各領域における臨床実践能力の質の向上を目的とした研修であり、臨床場面で対象者の予後（将来像を予測）を理解し、提供できる最良の作業療法技術を選択することが可能となる。 これにより、臨床実践能力の質のさらなる向上をはかる。	「基礎研修修了者」または「現職者研修修了且つ経験5年以上」
	精神障害領域	年2回		「基礎研修修了者」または「現職者研修修了且つ経験5年以上」
	老年期障害領域	年2回		「基礎研修修了者」または「現職者研修修了且つ経験5年以上」
	発達障害領域	年2回		「基礎研修修了者」または「現職者研修修了且つ経験5年以上」
専門作業療法士取得研修	高次脳機能障害分野	基礎：年3回	【専門基礎】 ・高次脳機能を理解して各種の作業療法理論並びにICFの枠組み（機能と構造、活動、社会参加で高次脳機能障害を説明できる。 ・対象が直面している背景の特殊性（個人因子、社会因子）を理解でき、作業療法介入の基礎的方法を提案できる。 【専門応用】 ・各種の作業療法理論から包括的に高次脳機能障害と機能を説明でき、対象者に関する複数の介入方法を提示できる。 ・事例のプレゼンテーションおよび事例の相談支援、連携ができる。 ・後輩指導を前提とした事例研究ができる。	専門基礎研修：全正会員 専門応用研修：基礎研修修了者（免除要件あり）
	精神科急性期分野	基礎：年2回	【専門基礎】 ＜急性期の基礎知識＞ 精神科作業療法で出会うことの多い統合失調症を中心に急性期の状態や患者を取り巻く環境を理解し、その上で急性期の知識の整理（評価・治療・家族支援の現状・社会資源）を行う。 ＜急性期治療の現状＞ 現在急性期で行われている様々な治療や関わりを知る。また、その中から、急性期に対する作業療法のあり方を確認する。 ＜急性期作業療法の実践＞ 事例を通して、作業療法の実践を考える。また、急性期でも疾患による特性の違いがあるため、作業療法士が出会う可能性の高い疾患の特性を踏まえて、そうした視点についても話し合う。講義と演習。 ＜取り巻く環境の理解＞ 急性期の対象者に作業療法士として関わる上で、具体的援助を行うベースとなる知識や理論を理解することを目的とする。 【専門応用】 精神科急性期に対する作業療法の目的を再確認し、急性期の状態像（困難事例も含む）に即した対応を考えることができる。また、相談業務へ関わる際のポイントやそのための関連法規の熟知と事例への応用ができる後輩育成のための研修会の企画やそのための技法を知っている。	専門基礎研修：全正会員 専門応用研修：基礎研修修了者（免除要件あり）
	摂食嚥下分野	基礎：年2回	【専門基礎】 ・正常は摂食嚥下の機能および機構の破綻による障害について専門・生理・解剖・運動学の視点より理解する。 ・摂食嚥下障害に対するチーム医療としての各職種の役割を理解する。 ・摂食嚥下障害に対するOTの基本的役割と、各種疾患別のOTの基本的役割を理解する。 ・摂食嚥下障害に対する基本的な評価から治療までの一連のプロセスと、さらにOTに不可欠な評価と治療について理解する。 【専門応用】 基礎知識をふまえて技術の習得を目的とし、高い実践能力を身につける。	専門基礎研修：全正会員 専門応用研修：基礎研修修了者（免除要件あり）
	手外科分野	ハンドセラピー学会にて開催	【専門基礎】 解剖・知覚、運動機能の知識習得 関連医学知識の習得 臨床基礎知識の習得 評価に関わる基礎知識の習得 【専門応用】 基礎知識をふまえた応用技術の習得を目的とし、高い実践能力を身につける。	専門基礎研修：全正会員 専門応用研修：基礎研修修了者（免除要件あり）
	特別支援分野	専門：年2回	【専門基礎】 ＜特別支援教育関連＞ 学校教育に関する法律・制度を理解し、対象者・関係者の相談に応じることができる。 ＜特別支援教育における作業療法の介入技術概論＞ 学校で求められる作業療法の知識と技術が理解できる。 【専門応用】 発達障害（広義）に関する高度な実践技術をもとに創造的な解決策を提案し、幅広い対象者・関係者の要請に応えることができる。 後輩の育成・指導に従事することができる（現場での見習いも含む）。	専門基礎研修：全正会員 専門応用研修：基礎研修修了者（免除要件あり）
	認知症分野	基礎：年4回 応用：年2回	【専門基礎】 ＜認知症の基礎知識＞ 老人の多くが経験する喪失感や不安感などの老齢に伴う心理的变化を理解する。 その上での認知症の知識の整理（評価・治療・家族支援の現状・社会資源）を行う。 ＜認知症治療ケアの現状＞ 現在認知症に行われているさまざまな治療やケアを知る。またその中から、認知症に対する作業療法のあり方を確認する。 ＜認知症作業療法の実践＞ 事例を通して、作業療法の実践を考える。また、OTが勤務している環境（施設）によっても他職種との連携の方法論が異なってくることも予想される。そうした視点についても話し合う。 ＜認知症を取り巻く環境の理解＞ 認知症に作業療法士として関わるうえで、具体的援助を行う上でベースとなる知識や理論を理解することを目的とする。 【専門応用】 認知症に対する作業療法の目的を再確認し、各認知症の状態像（困難事例も含む）に即した対応を考えることができる。また、相談業務へ関わる際のポイントやそのための関連法規の熟知と事例への応用ができる後輩育成のための研修会の企画やそのための技法を知っている。	専門基礎研修：全正会員 専門応用研修：基礎研修修了者（免除要件あり）

	福祉用具分野	基礎：年3回 応用：年1回	【専門基礎】 日常生活活動ごとの福祉用具・住宅改修の適応、指導、リスクマネジメント、フォローアップ等に関する知識、技術を習得する。 【専門応用】 ・福祉用具の適応と指導に関して高度な実践技術を持ち、特殊な事例への相談に応ずることができる。 ・福祉用具サービス支援計画を立案・実行できる。 ・後輩の指導・育成に従事できる	専門基礎研修：全正会員 専門応用研修：基礎研修修了者 (免除要件あり)
作業療法重点課題研修	生活行為向上マネジメント(最新情報)	年1回	平成 24 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業の最新情報を含め、生活行為向上マネジメントの開発経緯や考え方を理解し臨床で活用できるよう演習を通して学ぶ。また他職種に対して教育、普及できる作業療法士を養成する。研修カリキュラムは①立支援のためには当事者にとって重要な意味のある作業を見つけ出し、その作業を再獲得するためのプログラムの重要性について理解する②社会の動向を知り作業療法士として社会貢献できることを知る③生活行為向上マネジメントツールの活用方法④他職種との連携方法について網羅できるようにする。	正会員
	通所リハ・通所介護に関する作業療法	年1回	通所リハビリテーションなどの通所施設で作業療法士の果たす役割とその手法や制度での位置づけなど、多職種連携の視点を学ぶことを目的とする。	正会員
	内部障害に対する作業療法	年1回	内部障害のうち、呼吸器疾患と循環器疾患を中心に、病態と治療、フィジカルアセスメント、評価と実践の講義で構成し、基礎知識の整理と臨床技術の向上を図ることを目的とする	正会員
	うつ病患者に対する作業療法	年1回	作業療法の対象疾患としてうつ病について、作業療法の実践的な取り組みを含めて、作業療法白書や会員統計資料の情報を網羅し、うつ病患者に対する作業療法を実践していくときの具体的な評価法とアプローチの実践を学び、実践に応用できる専門的な視点を獲得することを目的とする。	正会員
	脳性麻痺に対する作業療法	年1回	脳性麻痺の臨床像を神経学的な面から、そして、臨床的な面から理解を進めます。それを前提に、作業療法士はどんな役割を担っていくか、家族とどう向き合っていくか、法律や制度、作業療法士協会とどう付き合っていくかを皆で考えることが目的とする。	正会員
	終末期における作業療法	年1回	終末期を迎えた対象者が最期まで生き抜くために作業療法士は何ができるのか。「死を迎える最期の時まで自分らしくどのように生き抜くことができるか」という課題は誰もが抱える大きな課題である。特に作業療法士が目にする対象者は、病院や施設内での生活を余儀なくされていたり、様々な障害をもつことが多い。それぞれの制限が多い生活の中で、対象者が生き抜くために「身体」と「心」を専門にする作業療法士へ期待するところは大きい。今回は、疾患・ライフステージ別特徴を踏まえ、作業療法士に期待される役割について学ぶ。	正会員
	作業療法臨床実習のあり方	年1回	現在、養成校の急増による臨床実習施設不足、臨床実習指導者および教員の若年化、指定規則による臨床実習時間数の減少等の社会的要因に加え、現代の学生気質の問題から、臨床実習における作業療法士の育成が困難となっている。また、診療報酬制度における在院日数の短縮化等、作業療法の質が問われているのが現状である。このような社会情勢の中、臨床作業療法士と学校教員の両者の立場より従来の臨床実習形態を見直し、社会の要請に応えるべく作業療法士の育成を目指したこれからの臨床実習のあり方を検討する。	正会員
	脳卒中の早期作業療法	年1回	急性期病院における早期からの身体障害領域におけるリスク管理や用いられる評価、作業療法の実践について。急性期にみられる様々な状態に併せて作業療法の支援内容について。意識障害のある場合、座位が許可されない時期、離床段階、それぞれの場面で作業をどのように用い、作業療法の支援を展開するかを学ぶことを目的とする。	正会員
	老健入所・特別養護老人ホームの作業療法	年1回	対象者へのアプローチは多職種で協働して実施するものであり、特に介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどの入所施設では、介護職や看護職と連携しながら日常生活上の課題を解消していくことが重要であるそこで本研修会では、解決すべき日常生活上の課題をどのように捉えればよいか、OT が得意とする専門的な視点とは何かを再確認した上で、他職種とのチームアプローチの中で、OT がどのような役割を果たしていくことができるのかを、研修参加者間での討議を通して考えていきたい。	正会員
	がんに対する作業療法	年1回	作業療法士に必要な基礎知識、医学的治療手段を学んだ上で、がん患者の QOL の向上を目指した臨床実践が求められている。本研修会は、会員の「がん」に関する基礎知識の整理と臨床・技術の向上を図ることを目的とする。	正会員
	訪問作業療法に関する作業療法	年1回	訪問リハビリテーションの特性として、個別性、地域性、文化に大きく左右される事が挙げられる。その裏返しとして、標準化しにくく他者の目に見えにくいという特性も併せ持つ。訪問リハを実践している各事業所の数の少なから事業所間交流も希薄となりがちで、母体病院や同一事業所内での独自のやり方しか知らないという実務者も多い。。訪問作業療法のスタンダードを知ること参加セラピストの事業所の現状を知ること、また先駆的な取り組みを知ること各セラピストが新たな視点や展開を考えるきっかけとすることを目的とする。	正会員
	平成26年度診療報酬・介護報酬情報等に関する作業療法	年1回	診療報酬、介護報酬、障害者総合支援法について、会員に対し新規情報の提供が必要である。作業療法士に関連する情報を提供し協会委員が所属施設において実践する部門運営の一助を目的とする。	正会員
	認知症初期集中支援チーム	年1回	認知症に関する国の施策の概要、オレンジプラン等で示された認知症初期集中支援チームの役割を知り、その中で作業療法士が果たす役割と技術を獲得する。	正会員
	復職への不安軽減	年1回	出産子育て会議など諸事情により職場を退職したり、作業療法士の仕事を休止したりする場面がある。そのような状況の会員を対象に復職への支援やそのような経験者の体験談を含めて作業療法士の復職の不安等の軽減を目的に研修会を開催する。	正会員
国際学会で発表してみよう～英語ポスター作成～	年 2 回	国際学会での発表準備として、ポスター作成方法や発表・質疑応答に関するポイントを習得することを目標とする	正会員	
国際学会で発表してみよう～英語スライド作成～	年1回	国際学会での発表準備として、スライド作成方法や発表・質疑応答に関するポイントを習得することを目標とする	正会員	
国際交流セミナー	年1回	作業療法の国際交流・国際協力参加への啓発と情報提供を行い国際的な視点を獲得することを目的とする。	正会員	
教員研修	プログラムⅠ～Ⅴ	年2回 2年で1クール	教員研修プログラムⅠ「作業療法教育の基礎」 教員研修プログラムⅡ「作業療法教育課程編成」 教員研修プログラムⅢ「教科指導法」 教員研修プログラムⅣ「作業療法教育現場の問題」 教員研修プログラムⅤ「自由テーマ」例：内部障害	正会員

臨床実習指導者研修	中級・上級研修	年2回	専門教育の質の向上が求められる中、少子化や進学率の上昇及び養成校の増加に伴い、学生の学力低下や内面的課題を抱えている学生の増加が指摘される。一方で、臨床実習指導者の若年化や経験則による指導など指導技術不足も加わり、臨床実習の質の低下が危惧されている。そのために臨床実習指導者が必要な知識や技術を段階的に修得する機会が必要である。その内容として①作業療法学生の臨床実習指導に必要な知識と技術に関する内容、②作業療法学生の臨床実習指導に必要な管理運営に関する内容を学習する。	初級研修受講者または初級研修免除者（現職者研修の該当研修会受講者）
全国研修会	全国研修会	年2回	作業療法の普及と啓発を目的とし、会員には作業療法の知識と技術の研鑽できる機会を与え、協会の方針を深く理解できる機会を設ける。また、一般市民や他職種には公開講座を通じて、作業療法を知る機会を提供する。	正会員

協会の生涯教育制度の一環として、都道府県作業療法士会が主催する研修の内容等

都道府県作業療法士会による研修会	現職者共通研修会	各テーマ 年1回	日本作業療法士協会の生涯教育制度の一環として、都道府県ごとに、都道府県作業療法士会が主催して行う基礎的な研修であり、日本作業療法士協会が定めた以下の10テーマについて、各テーマ90分ずつ実施することになっている。 ①作業療法生涯教育概論 ②作業療法における協業・後輩育成 ③職業倫理 ④保健・医療・福祉と地域支援 ⑤実践のための作業療法研究 ⑥作業療法の可能性 ⑦日本と世界の作業療法の動向 ⑧事例報告と事例研究 ⑨事例検討 ⑩事例報告	正会員
	現職者選択研修会	各テーマ 年1回	日本作業療法士協会の生涯教育制度の一環として、都道府県ごとに、都道府県作業療法士会が主催して行う基礎的な研修であり、日本作業療法士協会が定めた以下の4領域について、各領域6時間以上の講義を実施することになっている。 ①身体障害 ②精神障害 ③発達障害 ④老年期障害	正会員

3. 日本歯科衛生士会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修コース・項目	修得単位 1単位60分	概要	対象者等
基本研修	歯周治療の基本技術	15単位	（目的）歯科衛生業務における臨床的・実践的な基本技術を修得し、専門性を高めるとともに、未就業歯科衛生士の就業を支援する。
	摂食・嚥下機能療法の基本技術	15単位	（企画運営）日本歯科衛生士会（以下「本会」という） （実施主体）都道府県歯科衛生士会 各都道府県は、本会の生涯研修制度実施要綱に基づいて実施する。
	リフレッシュコース	15単位	（研修履歴登録・修了証交付）受講者の研修履歴は本会のデータベースに登録される。各コースとも15単位を修得した者に修了証を交付する。複数コースを修了した者に認定研修の受講資格が付与される。
認定制度（認定分野A）	生活習慣病予防（特定保健指導）	32単位	（目的）歯科衛生業務の特定分野において水準の高い業務を実践できる歯科衛生士を育成し、認定することにより、特定の専門分野における業務の実践、指導、企画調整の能力を養い、国民の健康と福祉の増進に寄与する。
	在宅療養指導（口腔機能管理）	37単位	（認定研修－認定歯科衛生士セミナー）認定研修はコース別に本会が実施する。研修内容およびシラバスは認定歯科衛生士委員会において作成する。受講対象者は、基本研修等において一定単位を修得し、歯科衛生業務経験3年以上の歯科衛生士とする。
	摂食・嚥下リハビリテーション	36単位	（認定分野の特定および認定）認定分野は、保健、医療、福祉の現場において一定の業務経験および特定の専門分野の高度な知識・技術を必要とする分野であり、本会が特定した分野とする。認定分野はAおよびBに区分される。 （認定分野A）本会の認定研修を修了した者が認定審査会の審査を経て認定される。
認定制度（認定分野B）	障害者歯科	日本障害者歯科学会の審査・推薦	（認定分野B）専門学会等との連携により、本会が委託・指定した専門学会等の教育研修課程を修了し、当該専門学会等の審査を経て推薦され、本会の認定審査会を経て認定される。この場合、認定機関を日本歯科衛生士会、専門審査機関を当該専門学会とする。
	老年歯科	日本老年歯科医学会の審査・推薦	（認定歯科衛生士の登録および認定証交付）認定審査会の審査を経て、認定分野別・認定歯科衛生士名簿に登録し、認定証を交付する。認定を受けてから5年毎に更新する。
	地域歯科保健 口腔保健管理	日本口腔衛生学会の審査・推薦	（認定証）認定分野Aの認定証は、日本歯科衛生士会の名称で交付する。認定分野Bの認定証は、認定機関を日本歯科衛生士会、審査機関を審査を行った専門学会とし、両会の名称で交付する。
			※ 以上の認定制度は平成20年度から開始し「認定歯科衛生士制度規則」に基づいて実施している。

4. 細胞検査士会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等		頻度	概要	対象者
生涯教育分野	教育セミナー	2回/年	1) 技術知識の向上、維持のため。 2) 2日間行い講演が中心となる。(参加人数 800人) 3) 細胞検査士更新クレジット対象。	細胞検査士
	ワークショップ	5回/年	1) 技術知識の向上、維持のため。 2) 標本の鏡検あり。(参加人数 1回に50人程) 3) 細胞検査士更新クレジット対象。	細胞検査士
教育分野	査士養成コース	2回/年	1) 細胞検査士資格の受験者を対象 2) 標本の鏡検あり。(参加人数 1回に100人程)	臨床検査技師
	<p>その他、臨床衛生検査技師会、臨床細胞学会、地区連合会、都道府県支部会、などの主催する資格維持に必要な研修会が多く開催されており細胞検査士は資格維持のために100%のものがいずれかの生涯教育研修会に参加している。</p> <p>細胞学会の資格認定試験に合格者を細胞検査士として認定している。 (臨床検査技師(国家試験)の資格が必要となっている。)</p> <p>細胞検査士は4年ごとの更新が必要です。 その内容を別添資料としてご案内させていただきますのでご覧ください。</p>			
	細胞検査士会 総務委員会			

5. 本診療放射線技師会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）平成24年度実績

研修テーマ、名称等	頻度	概要	対象者	
技術講習	X線CT検査	4回	診療放射線技術の質の向上と発展を目指す講習会	診療放射線技師 (含非会員)
	MRI検査	6回		診療放射線技師 (含非会員)
	核医学検査	5回		診療放射線技師 (含非会員)
	一般撮影	7回		診療放射線技師 (含非会員)
	消化管撮影	6回		診療放射線技師 (含非会員)
	乳房撮影	6回		診療放射線技師 (含非会員)
	放射線治療	1回		診療放射線技師 (含非会員)
診療放射線技師 基礎講習	医療安全学	2回	診療放射線技師養成教育課程にて不足している医療人として最低限必要な科目を補てんすることや、養成課程の高度教育化への取り組みとして基礎講習を設定している。すべての診療放射線技師が受講することを目的として開講した	診療放射線技師 (含非会員)
	医療社会倫理学	2回		診療放射線技師 (含非会員)
	救急医療学	2回		診療放射線技師 (含非会員)
	看護学	2回		診療放射線技師 (含非会員)
認定講習会	臨床実習指導教員	1回	学生だけでなく既に資格を取得した診療放射線技師も対象とした臨床実習の指導教員を認定するための講習会	診療放射線技師 (含非会員)
	放射線機器管理士	2回	医療施設における放射線関連機器の性能維持と安全性を確保し、良質かつ適切な医療サービスの向上を務める診療放射線技師の育成	診療放射線技師 (含非会員)
	放射線管理士	2回	医療施設等での放射線管理・被ばく管理・放射性同位元素による汚染を伴った災害や緊急事態に対応できる診療放射線技師の育成	診療放射線技師 (含非会員)
	医療画像情報精度管理士	2回	医用画像の管理、病院情報システム、放射線情報システム等の画像に関連する医療情報等の管理、精度維持ができる診療放射線技師の育成	診療放射線技師 (含非会員)
	Ai認定講習会	3回	死亡時画像診断 (Ai) を適切に活用できる診療放射線技師の育成	診療放射線技師 (含非会員)
放射線診療の安全分野	マネジメントセミナー	2回	管理者として必要な資質養成講習会	診療放射線技師 (含非会員)
	医療機器安全管理責任者講習	2回	医療機器安全管理責任者をめざす診療放射線技師の育成	診療放射線技師 (含非会員)
	機器管理研修会	1回	医療機器管理の基礎を	診療放射線技師 (含非会員)
	線量評価講習会	1回	医療被ばく適正化のための医療施設の線量把握を目的とした講習会	診療放射線技師 (含非会員)
	放射線被ばく相談員育成講習会	1回	医療被ばくに関する相談員の育成のための講習会	診療放射線技師 (含非会員)
業務拡大に伴う 臨床研修	静脈注射講習会	18回	チーム医療推進における業務拡大への対応、CT、MRI検査等に係る抜針・止血の講習会	診療放射線技師 (含非会員)
	注腸X線検査統一講習会	9回	チーム医療推進における業務拡大への対応、下部消化管検査に係る講習会	診療放射線技師 (含非会員)
	読影の関するセミナー	3回	画像診断における読影の補助の推進に向けた講習会	診療放射線技師 (含非会員)
その他	RI調製ガイドライン講習会	4回	日本診療放射線技師会、日本核医学会、日本核医学技術学会、日本病院薬剤師会の4団体共催で開催	医師、薬剤師、 診療放射線技師
	フレッシュズセミナー	37回	新卒者のための研修（都道府県単位で開催）	1～3年目の診療放射線技師 (含非会員)
	女性サミット	1回	女性技師が抱える問題点等についてグループディスカッションや意見交換を行う講習会	女性の診療放射線技師 (含非会員)

6. 日本臨床衛生検査技師会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等		頻度（年間開催数）	概要	対象者
5 分野	チーム医療	108	チーム医療関連多職種と合同研修	医療関係者
	管理運営	138	臨床検査室の管理運営（精度管理含む）	検査技師（非会員含む）
	教育	200	臨床検査の卒前・卒後教育全般	検査技師（非会員含む）
5 分野	微生物	339	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	免疫血清	145	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	血液	336	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
5 分野	臨床化学	291	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	病理	155	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	細胞	201	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
5 分野	生理	547	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	一般検査（尿など）	283	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	輸血	348	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
5 分野	遺伝子・染色体	33	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	公衆衛生	29	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	情報システム	29	臨床検査の専門知識・技術（質の向上）	検査技師（非会員含む）
	その他	271	公開講演など	一般公開

7. 日本医療社会福祉協会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

※認定医療社会福祉士とは、医療ソーシャルワーカーに特化した専門知識の習得を目的として、公益社団法人日本医療社会福祉協会認定している資格である。研修ごとの習得単位は、ポイントで示す。

研修テーマ、名称等	頻度/ ※認定医療 社会福祉士 ポイント	概要	対象者	
学生研修 社会福祉を学ぶ学生のための医療ソーシャルワーク学生講座	1回/年 11時間	講義（医療ソーシャルワーカーの歴史、業務、医学知識、チーム医療、社会保障制度）やグループディスカッション形式で学び、職業イメージを正しくもつ。	社会福祉を学ぶ大学生 2年・3年・4年、社会福祉養成校学生、大学院生	
新人研修 フレッシュ医療ソーシャルワーカー1日研修	6時間 10P 全国3ヶ所	先輩や同期の仲間と交流を持ち、社会人の基礎や医療ソーシャルワーカーの心構えや知識、近隣の都道府県協会を知る。 1. 医療ソーシャルワーカーの心構え 2. 社会資源 3. 専門職団体について 4. ディスカッション	保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験2年未満の現任者	
現任者研修分野	医療ソーシャルワーカー 基幹研修Ⅰ （厚生労働省医療ソーシャルワーカー初任者講習会）	5日間 20P 全国2ヶ所	実務経験3年未満の保健医療分野のソーシャルワーカーが、医療ソーシャルワーカーとして基礎的な知識、技術を取得する。 1. 厚生労働行政の動向 2. 日本における医療ソーシャルワークの成立と課題 3. 医学知識①糖尿病と合併症 4. 医学知識②脳卒中と連携パス 5. 医学知識③がんと緩和ケア 6. 医学知識④アルコール関連問題とアデイクション 7. 医学知識⑤認知症 8. 医学知識⑥在宅療養 9. 生活機能障害とソーシャルワーク 10. 医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅰ ソーシャルワークの価値と倫理 11. 医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅱ「患者」をめぐる価値と倫理 12. 医療ソーシャルワーカーに必要な社会保障制度の動向と活用 13. 診療報酬とソーシャルワーク 14. 医療ソーシャルワーカーの連携Ⅰ チーム医療 15. 医療における「家族」の理解 16. 医療ソーシャルワークの面接技術 自己覚知・コミュニケーションスキル 17. 医療ソーシャルワークのアセスメントⅠ 18. 医療ソーシャルワークの記録 19. 事例検討の方法と実践の検証 課題あり。	保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験3年未満の現任者
	医療ソーシャルワーカー 基幹研修Ⅱ	3日間 30P 全国3ヶ所	実務経験3年以上の保健医療分野のソーシャルワーカーが、標準的に行うべき業務を遂行できるよう、必要な知識、技術等を身につけ実践力を高める。 1. 医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅱ 2. 医療ソーシャルワークの業務改善・開発とマネジメント 3. 医療ソーシャルワーカーの連携Ⅱ ネットワーキング 4. 医療ソーシャルワークの基本的援助技術Ⅱアドボカシー 5. 医療ソーシャルワークアセスメント 6. ソーシャルワークリサーチ 7. スーパービジョン 各セッション事後レポート課題提出	保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験3年以上の現任者
	保健医療分野における ソーシャルワーク専門研修	通信 スクーリング 3日間 40P	社団法人 日本社会福祉士会と共催 保健医療分野で特化される力量を獲得し、他職種との連携が図れ、管理能力を有する熟達したソーシャルワーカーを養成することを目的とする。 <通信> 科目群1. ・保健医療分野のソーシャルワークの歴史と動向 ・医療と社会・経済 ・医療機関の機能とソーシャルワーク 科目群2. ・医の倫理とソーシャルワーク ・生活障害とソーシャルワーク ・連携・協働 科目群3. ・実践の評価・記録 ・組織と業務管理 ・保健・医療・福祉関連法規・制度 <スクーリング> 講義 ・医療制度 ・医学知識 ・トピックス（2013年トピックスソーシャルワーク） 演習 ・価値と倫理 ・アセスメント ・実践研究能力 ・多職種連携	①および②を満たす者 ①次のいずれかひとつを満たしている者ア）保健医療分野における相談援助実務経験が10年以上 イ）当協会の指定の現任者研修を修了している者 ウ）日本社会福祉士会の指定の障害研修制度修了している者 エ）各都道府県社会福祉士会に所属する正会員で推薦がある者。 ②保健医療分野におけるソーシャルワーク実践事例3例を提出できること
	実習指導者養成認定研修	3日間 25P 全国2ヶ所	社会福祉専門職の養成教育において重要な過程である実習現場で、有効な指導ができるように、現場のソーシャルワーカーを実習指導スーパーバイザーとして養成することを目的とする 1. 実習指導概論 2. 実習マネジメント 3. 実習プログラミング 4. 実習スーパービジョン 事前課題、事後レポート課題あり	保健医療分野のソーシャルワーカーの現任者

	スーパーバイザー養成認定研修	2日 25P	保健医療分野におけるソーシャルワークサービスの充実、および、質の向上を図るため、スーパーバイザーを養成することを目的とする。 1. スーパービジョン体制の枠組み 2. 包括的スーパービジョンモデル 3. SVのトレーニングシステムの理解とダイナミクス 4. 組織におけるスーパービジョン体制の意義と必要性 5. スーパービジョンの方法論 6. スーパービジョンの様式・形態・課題 7. スーパービジョンにおける倫理的配慮 8. スーパービジョンの効果的実践 9. グループ討議 事前課題、事後課題あり	次のいずれかを満たすもの 1) 10年以上の実務経験がある当協会のスーパーバイザー登録者 2) 10年以上の実務経験があり、指定の研修を修了している者 3) 当協会の認定医療社会福祉士で実務経験10年以上のもの 4) 実務経験10年以上の保健医療分野の現任者で組織の承諾が得られる者
人材育成分野	実習指導者養成認定研修 フォローアップ	1日 10P	実習指導者養成認定研修における学習内容の深化と、実習現場での指導上の課題を解決することによる実習指導者としての能力の向上を目指す 1. 実習マネジメント 2. 実習プログラミング 3. 実習スーパービジョン 4. 実践報告 事前課題	実習指導者養成認定研修の修了者
	研修講師のためのセミナー	1日 10P	社会福祉専門職の養成または現任教育において、組織内或いは都道府県協会等で講師を担うソーシャルワーカーが、プレゼンテーション技術、資料の作り方、演習の進め方等、研修に求められる技術を学び、後進の育成や指導に役立つ内容とする。また、現任研修のような高等教育だけでなく、市民講座、多職種セミナーなど、参加者に応じた研修の組み立てを学ぶことを目的とする。 1. プレゼンテーションとは何か 2. プレゼンテーションの組み立て方 3. 資料の作り方	講師を担うソーシャルワーク現任者 または教育的な立場にある者。
	アセスメント	1日 10P	医療ソーシャルワーカー基幹研修Iでの学びを、講義と演習を通してさらに深め、アセスメントの実践力を高めることを目的とする 1. 講義ソーシャルワークにおけるアセスメント 2. 演習①グループワーク 事例 3. 演習②グループワーク 4. 演習③アセスメントにつながる面接 5. 講義アセスメントを導くために 事前課題	保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験3年未満の現任者
	インテグレイティヴ・ショートターム・リットメント (総合的短期型支援)	2日 20P	ソーシャルワーク諸理論を統合的に活用する統合的短期型支援 (ISTT) と面接技法の演習を通して、より効果的で効率的な支援方法を学ぶ。 1. ソーシャルワーク理論とISTT 2. ソーシャルワーク援助に必要なISTTの10のエッセンス 3. 事例から考えるISTT 課題	保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験3年以上の現任者が望ましい
	面接技術～ソリューション・フォーカスト・アプローチ～	1日×3回 30P	面接技術の向上により短時間で適切なアセスメントにつながる情報収集や、クライアント家族との関係構築が可能になる。そのための手法の一つとして、ソリューション・フォーカスト・アプローチの技術を学ぶ 1. ソリューション・フォーカスト・アプローチとエンゲージメント ・相談援助の面接構造 ・エンゲージメントの段階の技法 ・ソリューション・フォーカスト・アプローチの質問の形 2. ソリューション・フォーカスト・アプローチとソーシャルワークの情報収集 ・1ヶ月の試みの共有 ・理解的な聞き方 ・社会福祉の理論の枠組みに沿った情報収集をSFAの質問の方を用いて行う 3. ソリューション・フォーカスト・アプローチとアセスメント・プラクティス ・1ヶ月間の試み ・アセスメント・プラクティス	保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験3年以上の現任者が望ましい

スキルアップ研修分野

ソリューション・フォーカスト・アプローチとソーシャルワーク	2日間×2回 40P	面接技術～ソリューション・フォーカスト・アプローチ～を受講後も継続して学ぶための研修。ソリューション・フォーカスト・アプローチと整合性のある理論や、保健医療ソーシャルワークの現場で起きているカレント・イシューに対応することを目的とする。 1. ライフ・モデル 2. ストレングス・モデルのケース・マネジメント 3. 自殺とソリューション・フォーカスト・アプローチ	「面接技術～ソリューション・フォーカスト・アプローチ～」を受講した保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験3年以上の現任者が望ましい
記録～プロセスからプロセス記録へ～	1日 10P	プロセス記録とプロセス記録の違いを明確にし、記録の中でも電子カルテに多いSOAP記録を基本としたプロセス記録のあり方などを講義とワークショップ形式で学ぶ。 1. 講義 プロセス記録 SOAPで記録を書く 2. ワークショップ	記録について学びたい保健医療分野のソーシャルワーカー
記録～プロセスからプロセス記録へ～アドバンス	1日 10P	講義（ドキュメンテーション～アドバンス～）やワークショップ（SOAP記録のワークショップ）を中心に根拠のある記録方法を学ぶ。 1. 講義 ドキュメンテーション 2. ワークショップ	記録のスキルをさらに向上させたい保健医療分野のソーシャルワーカー
退院支援専門ソーシャルワーク	1日半 20P 全国2ヶ所	急性期病院をはじめ保健医療分野のソーシャルワーカーは退院支援に多くの時間を取られている現状にある。診療報酬の動きをふまえ、ソーシャルワーカーが積極的に退院支援について考え学ぶことを目的として実施する。 1. 講義 医療ソーシャルワーカーに望む退院支援 2. 講義 退院支援業務の概観 3. 講義と演習 連携の方法論の検討 その枠組みの提示 4. 講義 ソーシャルワーカーと看護師の協働による退院支援 5. 講義と演習 退院支援におけるソーシャルワークアセスメントの重要性～ツールとしてのエコマップの活用～	保健医療分野のソーシャルワーカー 実務経験3年以上 退院支援ソーシャルワークの実践者
NICU入院児ソーシャルワーク研修	2日間 20P	NICU退院調整およびNICU入院児支援コーディネーターの役割に応えることができるよう、周産期から始まるソーシャルワークについて学ぶ。 1. 実践モデル 概観 理論 2. 援助手続き 3. 援助手続き 応用 4. 基礎知識 5. 事例を使った演習	周産期・新生児医療施設を有する医療機関のソーシャルワーカー 現任者
ソーシャルワークにおける就労支援	1日 10P	疾病や事故によって、今後の生活に不安を有する患者や家族の経済的な不安や心理的な悩み、家族関係など、社会復帰援助を行うことができるよう、就労支援を学び、実践力を高めることを目的とする。 1. 講義 ソーシャルワークにおける就労支援 2. 疾患に応じたソーシャルワーク実践 3. グループ討議・ワークショップ	保健医療分野のソーシャルワーカー現任者
緩和ケアにおけるソーシャルワーク～いのちに向き合う～	1日 10P	緩和ケア対象の患者・家族へのソーシャルワーク実践が緩和ケア病棟のみならず、ソーシャルワーカーとして広く求められる。講義・演習を通して緩和ケアにおけるソーシャルワークについて学び、実践力を高めることを目的とする。 1. 講義 緩和ケアにおけるソーシャルワーク 2. 緩和ケアの対象者理解と援助 事例を通して考える	緩和ケア領域で実践中、および関心を持つソーシャルワーカー現任者
ソーシャルワークにおける臨床倫理	1日 10P	「クライアントの自己決定を支援する」ことの重要性は論を待たない。しかし選択の局面は、クライアント自身が意思表出困難、選択に制限が生じる状況、様々な要因の絡み合いなど「自己決定を支援する」ことが、容易ではないことは少なくない。そうした状況を臨床倫理的な視点で捉え、ソーシャルワーク実践における臨床倫理について考えることを目的とする。 1. 臨床哲学 2. 医療の実践現場における事例検討 3. ディスカッション	保健医療分野のソーシャルワーカー現任者
家族療法についてのワークショップ	1日 10P	当事者と家族に対する理解を深め、臨床に生かすことを目的に家族療法の理論と実際について学ぶ。特に家族療法の視点を踏まえたアプローチの実際、考え方を応用できることを目指す。 1. 家族援助と家族療法 2. 家族療法の概念 家族システム論、家族構造、家族ライフサイクル、ジェノグラム、 3. 家族面接 4. 家族アセスメント 5. 家族への介入 6. 社会構成理論に基づく家族療法の視点	保健医療分野のソーシャルワーカー現任者
認知症高齢者へのソーシャルワーク支援	1日 10P	治療の継続や選択の局面、地域での生活支援に関わるソーシャルワーカーを養成し、権利擁護や成年後見などの法的な枠組みを含めたソーシャルワーク支援を学ぶ 1. 認知症の基本的な知識 2. ソーシャルワーク支援 3. 権利擁護	保健医療分野のソーシャルワーカー現任者

交通事故被害者生活支援 研修	1日 10P	<p>交通事故被害者が辿る過程全体を把握し、適切な支援と次に繋ぐことができる。自動車事故に特化した保険制度と公的制度的関係、社会資源を理解する。被害者支援のためのリサーチやソーシャルアクションができることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 損害保険と公的制度的関係 2. 交通事故被害者が利用できる制度 3. 交通事故による重症後遺障害の理解 3. 自動車事故被害者とソーシャルワーク 連携手帳など 4. 患者家族会の活動 	保健医療分野において、交通事故被害者の生活を支援する現任のソーシャルワーカー
ソーシャルワーク研究発表セミナー	2日 20P	<p>専門性を高めるためには研究は不可欠であり、専門職である証である。研究に必要な知識や方法を学び、保健医療分野のソーシャルワーカーの研究発表を促進することを目的として実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 研究総論 量的研究・質的研究 研究デザイン他 2. 演習 	保健医療分野のソーシャルワーカー現任者

8. 日本栄養士会(医療関連研修のみ)

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等		頻度	概要	対象者
臨床分野	スキルアップセミナー	年1回	臨床に携わる管理栄養士・栄養士の技術向上を目的に、注目されるトピックスや最新情報を取り上げる	管理栄養士・栄養士 (非会員を含む)
	臨床栄養学術セミナー	年1回	臨床業務に携わる管理栄養士・栄養士を中心に、明日から役立つ内容で日々の臨床に関わる栄養管理や療養指導の疑問、問題について取り上げ、基礎から応用まで幅広く網羅する	管理栄養士・栄養士 (非会員を含む)
	食事療法学会	年1回	講演・症例発表の他、栄養管理・給食経営管理関連のマネジメントについて全国の医療施設に勤務する管理栄養士・栄養士が一堂に会し研鑽を図る	管理栄養士・栄養士 (非会員を含む)
生涯学習分野			医療に係る栄養士のみでの参加ではないので省略	

9. 日本救急救命士協会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等	頻度	概要	対象者	
応急手当及び救急に関する分野 普及啓発に関する分野	9月9日「救急の日」 救急蘇生法体験	1	PCスキルレポーティングシステムを活用した救急蘇生法体験	一般市民
	第36回すみだまつり	1	救急蘇生法体験	一般市民
	養護教諭の現場力向上セミナー	1	学校におけるアナフィラキシーショック・過換気症候群の救急処置	養護教諭
	救急蘇生法	1	成人、小児、乳児の一次救命処置、気道異物、AEDについて	一般市民
	交通事故救命救急法	1	交通事故に遭遇したときの対応、心肺蘇生、AED、止血法	一般市民
救急救命士生涯教育 に関する分野	EMS Safety Course	2	クルー・リソース・マネジメントをはじめ、EMSの安全な業務を推進するために開発されたプログラム	救急救命士 救急救命士学生
	BLSヘルスケアプロバイダー	3	成人、小児、乳児の一次救命処置、気道異物、AEDについて	救急救命士 救急救命士学生 一般市民
	ACLSプロバイダー	1	成人の二次救命処置、重症不整脈、急性冠症候群、脳卒中の初期治療について	救急救命士 救急救命士学生
	リアクトライトBLSプロバイダー	3	SSIプログラムと同様のホームスタディから始まり、ダイバーの緊急時のCPRトレーニングと国際救急ガイドラインに沿った学習を行う訓練プログラム	救急救命士（水難救助隊） 救急救命士学生 ダイバー

10. 日本言語聴覚士協会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等		頻度	概要	対象者
基礎プログラム講座	基礎講座	都道府県士会で開催	基礎講座講師養成研修会修了講師による都道府県士会ごとの開催 内容 1) 臨床のマネジメントと職業倫理 2) 臨床業務のあり方、進め方 3) 職種間連携論 4) 言語聴覚療法の動向 5) 協会の役割と機構 6) 研究法序論	新人教育であり、入職から3年目までの履修を勧めている。
	基礎講座講師養成研修会	年1回	都道府県士会において開催する基礎講座講師養成のための研修会	臨床経験5年以上の者
専門プログラム講座	専門講座	年5回全国研修会 12講座	専門領域の最新情報を中心とした生涯学習のための講座 内容 1) 関連領域科目（統計学、音響学、言語学等） サービス提供システム（訪問リハ等） 3) 成人言語・認知（失語症、高次脳機能障害、認知症等） 4) 言語発達障害 5) 発声・発語（音声障害、構音障害、吃音、摂食・嚥下障害等） 6) 聴覚障害 7) 臨床実習 8) 研究法・症例研究	全会員
	同上	都道府県士会開催	上記全国研修会で開講した同一講座を都道府県で開催	全会員
認定言語聴覚士	摂食・嚥下障害領域	隔年開催 6日間の開講	講義、演習、症例検討、試験による評価	臨床経験5年以上 専門プログラム1クール修了者
	失語・高次脳機能障害領域	隔年開催 6日間の開講	講義、演習、症例検討、試験による評価	臨床経験5年以上 専門プログラム1クール修了者
	言語発達障害領域	隔年開催 6日間の開講	講義、演習、症例検討、試験による評価	臨床経験5年以上 専門プログラム1クール修了者
	聴覚障害領域、発声・発語障害領域は次年度以降の予定	隔年開催 6日間の開講	講義、演習、症例検討、試験による評価	臨床経験5年以上 専門プログラム1クール修了者
その他	都道府県士会主催研修会	2012年度実績 140件	講演会、症例検討会など	各都道府県士会会員

11. 日本診療情報管理士会

会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等	頻度	概要	対象者	
研修分野	全国研修会	年1回	2日間開催 1日目：教育セミナー（講演）、ワークショップ等 2日目：特別講演（その時のトピックスを話題としている、シンポジウム等）	・正会員：診療情報管理士 ・賛助会員：以外 （会員限定）
	コーディング・スキルアップ勉強会	年7～8回 （7地区）	診療情報管理士の専門職種としての卒後教育とスキルアップ、併せて診療情報管理士教育修了者（認定試験受験有資格者）のフォローアップを目的として疾病、医療行為コーディングの正しい知識と技術の習得を行う。	・診療情報管理士 （正会員、非会員） ・診療情報管理士認定試験 受験有資格者
	統計・スキルアップ勉強会 （2013年度新設）	年4回 （東京のみ）	診療情報管理士の専門職種としての卒後教育とスキルアップ。日常業務に必要とされる医療統計処理技法の習得を目的とし、病院統計や患者データの整理など代表値・散布図の作成、推測統計と推定、検定など表計算ソフトを用いた演習。日本病院会の会議室でパソコンを使用し、実践的な演習方式で行う。	診療情報管理士に限る （正会員、非会員）
	地域ミーティング	合計69回 （2012年度実績）	診療情報管理業務の日頃の問題や実務に関する情報提供や情報交換の場を提供し、診療情報管理士のよりよい地域ネットワークをつくる。	・正会員：診療情報管理士 ・賛助会員：以外 （会員限定）
	診療報酬改定セミナー	診療報酬改定時期に合わせ、2年に一度位	診療報酬改定について、特にDPC改定の講演、説明会を行う。（東京、大阪、福岡）	・正会員：診療情報管理士 ・賛助会員：以外 （会員限定）
S分野				
S分野				

12. 日本臨床心理士会

協会主催の研修の内容等（主に実施しているもの）

	研修テーマ、名称等	頻度	概要	対象者
職域分野によるもの	医療保健領域研修	3	チーム医療に関する研修、障害者の地域生活支援に関する研修、双極性障害に関する研修、発達障害に関する研修、他	臨床心理士、大学院生
	産業領域研修	10	復職支援、事例検討、職場のハラスメント、他	臨床心理士、近接領域専門職、大学院生
	司法・法務・警察領域研修	8	薬物依存者への支援、再非行・再犯防止支援、更生保護施設での支援、発達障害と非行、離婚に伴う親への援助、暴力のリスクアセスメント、処遇カウンセラー研修、医療観察法を学ぶ研修	臨床心理士、近接領域専門職、大学院生
	子育て支援講座（共催）	1	子育て支援に関する研修	臨床心理士
	子ども家庭支援研修	1	地域における家庭支援、発達アセスメントと支援、他	臨床心理士、大学院生
	保育心理臨床研修	1	保育臨床心理士の活動、他	臨床心理士
	社会的養護分野研修	2	児童福祉システムと社会的養護	臨床心理士
	学校臨床心理研修（共催）	31	いじめ対策、学校内の多職種連携、スクールカウンセラー初任者のための研修、他	臨床心理士
	私設心理相談領域研修	4	私設心理相談開設のプランニング、経営セミナー、弁護士との協働、他	臨床心理士
臨床心理士の業務に関する分野	心理療法の技法に関する研修	20	心理療法統合の実際、精神分析的な心理療法の理論と実際、コラージュ療法、ストレスマネジメント入門、認知行動療法、家族療法、他	臨床心理士、大学院生
	臨床心理士の倫理に関する研修	4	臨床心理士の職業倫理について、	臨床心理士
	心理査定に関する研修	5	WISC-IVの実際、自我機能の査定、アセスメントとしての描画、他	臨床心理士、大学院生
	スーパービジョン研修	5	臨床心理士の初期研修をめぐって、若手・中堅の指導者養成をめぐって、公的機関で働く心理士の研修課題、病院実習における実習指導の諸問題とその改善策、海外におけるスーパービジョン事情と日本における課題、他	臨床心理士
領域横断的な分野	自殺対策研修	1	自殺予防ゲートキーパー研修	臨床心理士
	発達障害支援研修	9	発達障害と医療、応用行動分析による発達障害支援、新版K式発達検査によるアセスメント、他	臨床心理士、近接領域専門職、大学院生
	ひきこもりの理解	2	ひきこもりの心理理解とその対応	臨床心理士、近接領域専門職、大学院生
	過重・多重債務者と心理臨床研修	1	多重債務と自殺予防、多重・過重債務に関する法律知識、地域での取り組み、他	臨床心理士
	被害者支援研修	2	グリーフケア、性暴力被害者へのケア	臨床心理士、近接領域専門職、警察関係者、大学院生
その他の分野	東日本大震災活動研修報告会	1	東日本大震災に関する支援活動の報告と研修会、シンポジウム、現地からの報告	臨床心理士他、一般
	各県士会担当役員向け研修	5	各県士会役員向け研修会（医療保健、産業、倫理、子ども家庭支援、被害者支援）	各都道府県臨床心理士会担当役員
	英語で学ぶ心理療法	1	英語で学ぶ心理療法	臨床心理士
	事例検討	1	事例検討による新人向け研修	臨床心理士
	研究法に関する研修	1	質的研究法	臨床心理士

13. 日本臨床工学技士会

主催の研修内容等（主に実施しているもの）

研修テーマ、名称等		頻度	概要	対象者
職能分野	実習指導者講習会	年1回	“臨床実習指導者”に求められる臨床工学に関する最新の知識・技術および“実習生”に対する効果的で適切な指導スキルを習得するための講習会を実施	臨床工学技士、養成校教員
呼吸分野	呼吸治療関連指定講習会	年1回	呼吸治療領域において専門知識の向上、質の高い医療の提供と安全確保の寄与を目的とし、呼吸治療領域の専門知識やチーム医療の一員としての基礎知識を履修しその履修度の評価目的として、「呼吸治療専門臨床工学検定試験」を実施	臨床工学技士、その他医療職
血液浄化分野	血液浄化関連指定講習会	年1回	血液浄化領域において専門知識の向上、質の高い医療の提供と安全確保に寄与することを目的とし、血液浄化領域の専門知識やチーム医療の一員としての基礎知識を履修しその履修度の評価目的として「血液浄化専門臨床工学検定試験」を実施	臨床工学技士、その他医療職
	透析液安全管理責任者セミナー	年複数回	「透析液清浄化ガイドライン」・（公社）日本臨床工学技士会より発行し、現状に則するよう随時更新したガイドラインに示された透析液水質管理を実践する「透析液安全管理者」の育成プログラムを実施	臨床工学技士、医師
不整脈分野	不整脈治療関連指定講習会（基礎編・応用編）	年各1回	不整脈領域における質の高い治療の普及に貢献できる技術者を育成することを目的とし、「不整脈治療関連指定講習会・基礎編/応用編」を開催し、講習会の履修度の評価として「不整脈治療専門臨床工学検定試験」を実施	臨床工学技士、その他医療職
	PM関連専門臨床工学技士認定のための指定講習会	年1回	当会会員でペースメーカー関連検定試験の合格者を対象に標記講習会を開催し専門臨床工学技士を育成（平成25年度から不整脈治療関連指定講習会開催により本年度で終了）	臨床工学技士
災害対策分野	災害対策研修会	年1回	臨床工学技士・看護師を中心とした医療職のボランティア活動を円滑に行えるよう、支援ボランティアとして活動するための基本原則の習得と支援活動ができる能力を身に付けることを目的に実施	臨床工学技士、その他医療職
臨床工学分野	新卒者臨床工学技士講習会	年1回	臨床工学技士としてのモチベーションを高く保ち、コミュニケーションスキル、実務知識、学術技能の更なる向上を目的に実施	臨床工学技士
	医療器安全管理責任者講習会	年1回	医療機関において医療機器の安全使用に係る総合的安全対策を行う医療機器安全管理責任者を育成する。	臨床工学技士、その他医療職
教育研究分野	日本臨床工学技士教育研究会	年1回	（公社）日本臨床工学技士会と日本臨床工学技士教育施設協議会の連携により、臨床工学技士の育成、教育に関するテーマについて臨床工学技士の現状と今後の課題、役割についての研究する	臨床工学技士、養成校教員、その他医療職